

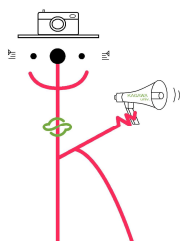
平成29年6月1日

## 農学部・多田邦尚教授(瀬戸内圏研究センター長)が日仏海洋学会賞を受賞！

香川大学農学部の多田邦尚教授(瀬戸内圏研究センター長)が日仏海洋学会賞を受賞しました。業績名は、「沿岸海域の低次生物生産過程と生元素循環に関する研究」です。日仏海洋学会は、日仏会館の傘下にある26(うち理工系8学会)の関連学会の一つで、日・仏両国の海洋や水産に関係する分野の科学の協力を促進することを目的とした学会です。なお、授与式は、平成29年6月10日(土)16時頃から日仏会館会議室501号室(東京都渋谷区恵比寿3-9-25)にて執り行われます。

多田教授は、我が国の閉鎖性海域を代表する瀬戸内海において研究を展開してきました。まず、海洋食物連鎖の出発点である植物プランクトンの一次生産量(光合成量)の測定を瀬戸内海の全域で実施し、この海域の生物生産力の指標となる成果をあげました。また、大型珪藻(*Coscinodiscus wailesii*)や夜光虫(*Noctiluca scintillans*)といった、時として沿岸海域で極めて大きな生物量を占めるプランクトンについて、長年に渡って生物量の増減過程とその化学成分を測定し、これらの生物を巡る生元素(炭素・窒素・ケイ素など)の動きを明らかにしました。さらに、海底泥の有機物含量や底泥からの栄養塩の溶出についても研究し、高度経済成長期以降きれいになった瀬戸内海の環境変遷を知る上で極めて重要なデータセットを提供しています。これらの研究成果は、我が国の沿岸海域に関わる多くの研究者に引用されています。

近年では、沿岸海洋学研究を幅広く続ける一方で、魚類養殖場の環境劣化や、瀬戸内海を中心に大きな問題となっている栄養塩濃度の低下、これを原因とする養殖海苔の色落ちなどにも積極的に取り組み、科学的な研究成果をあげると共にその対応策を提言しています。以上のようなフィールド観測に基づいた幅広い沿岸海洋研究を精力的に展開し、数多くの研究成果をあげ続けてきた功績が高く評価されました。



お問い合わせ先

➤ 学術・地域連携推進室 研究協力グループ 田村

TEL: 087-832-1316

メール: tikyosenm@jim.ao.kagawa-u.ac.jp